

# カラマツ林業に夢を持って —富川愛林会の経営事例より—

井 谷 和 善

## はじめに

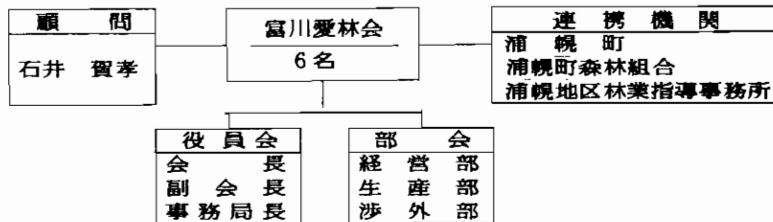
十勝支庁管内浦幌町に、カラマツ林業に夢と希望を持ち、活動をしているグループがある。活動を始めておおよそ4年たつ、この「富川愛林会」について、活動内容と取り入れている技術を紹介する。

## 富川愛林会の発足と活動

富川地区は、浦幌町市街地の北約15kmにある。林業指導事務所が主催した「林業青空教室」を契機として、58年には6名の会員による富川愛林会が誕生した。

愛林会の活動目標は、家族ぐるみで「よい山づくり」に励むこと、および活発な林業生産活動を展開する「地域づくり」である。この目標達成のために、会員は個々の経営計画をたて、それを基に地域共通の育林体系を作成し、カラマツを主体とした計画的な林業経営を進めるものである。

会の組織は次のとおりである。学習活動は、家族ぐるみであり、生産活動は会員相互の手間替えによって労働力の有効な活用を図っている。



表一 所有別森林資源表

単位 A(面積): ha, V(蓄積): 千m<sup>3</sup>

	A V別	天然林	人工林	無立木地	その他	合計
国有林	A	41	31	—	—	72
	V	3	4	—	—	7
道有林	A	18,871	3,440	22	965	23,298
	V	2,966	269	—	1	3,235
一般民有林	A	15,050	15,699	365	199	31,313
	V	1,581	1,551	—	—	3,132
合計	A	33,962	19,170	387	1,164	54,683
	V	4,550	1,824	—	1	6,374
富川愛林会 (6名)	A	87	166	—	—	253
	V	9	14	—	—	23

## 再掲 一般民有林と富川愛林会の樹種別資源

単位 A(面積): ha, V(蓄積): 百m<sup>3</sup>

	A,V 別	人工林					未立木地	天然林	合計
		カラマツ	トドマツ	その他N	L	小計			
浦幌町 一般民有林	A	11,380	2,944	982	393	15,699	564	15,050	31,313
	V	13,533	912	788	278	15,511	—	15,805	31,316
富川地区 (愛林会)	A	133	22	10	1	166	—	87	253
	V	124	6	6	1	137	—	87	224

### カラマツの良さを認識してもらうために

町並びに愛林会の森林資源表によると、当地域の主要樹種はカラマツである。幸いにして、富川地区に隣接する本別町には、高密度路網による生産費節減とカラマツを主体とした林業経営で天皇杯の栄に輝く石井賀孝氏があり、氏のカラマツに対する深い造詣と、良質大径材生産の見本が近くにあること等の影響もあり、会員間の度重なる話し合いによって、カラマツについて次のように認識するに至った。

- 1 カラマツは生長が早く、地域に適地が多いこと
- 2 材質が優れていること
- 3 間伐等による太りの調整が他の樹種に比べ容易であること
- 4 量のまとまりがあり、間断のない生産と市場性が期待できること



写真-1 会員が揃って間伐方法を検討する

近年、カラマツ材は低価格で推移しているのは、ヒノキ、スギに比べ造林の歴史も浅く、育林、加工、流通のいずれも、その機構、機能及び技術が確立されていないのではないかと、また、林産業関係者も含め、世間がカラマツの良さを知らないか、知っていながら現状に甘んじているのではないかと考えた。このため、まず良質の大径材を生産して、世間一般が今まで抱いていたカラマツに対する認識を取り除くことを、この会のもう一つの大きな目標としている。

### カラマツ「貴化木」の生産が愛林会の夢

地位を見定め、適地に適木を造林し、超長伐期、そして、育林過程で徹底した保育と密度管理を実施する、そこから生産される材が「貴化木」とすると愛林会の人達は確信している。確かに貴化木に対する批判(例えば、単に大径材と称すべきという人もいる)が多いことも会員の方々は知っている。そんな時、愛林会の誰もが口を揃えてこういう。「貴化木は私たちの夢には違いないけれども、実現できる夢として頑張っているのです。批判は批判として謙虚に受け止め、その中から育林上のすばらしいヒントも得られるだろうし、近い将来、林が完成された時に、胸を張って私の山林を見てくださいますと信じております」と。

## 産地化は貴化木から

ここで、この会が称している貴化木とは何かについて整理してみる。

- |          |                |
|----------|----------------|
| 1 大径材である | 4 真円、かつ完満である   |
| 2 無節である  | 5 年輪幅が均一である    |
| 3 通直である  | 6 カラマツ特有の光沢がある |

すなわち、貴化木とは高品質材であり、この生産の産地化と銘柄化により、林業収入の増大を期待するものである。近年、木材需要の変化から、特にカラマツは短伐期から長伐期へと移行する情勢にあるが、愛林会の人たちは過去の漫然とした育林を反省して、広く川下側の意見や要望を受け止め、カラマツの持っている特性を生かして良質の大径材（貴化木）を生産し、加工業界、流通業界、そしてエンドユーザー側に認められることが、最終目標であると考えている。

## 取り入れている技術

### 1 目標は長伐期大径木

目標伐期は 100年とし、胸高直径 1 m を見込んでいる。この場合の年輪幅は、均一に 5 mm を条件としている。

図-2 は愛林会が作成した体系図であり、既存林分の施業結果を勘案して当面林齢 50 年までの体系を組んでいる。

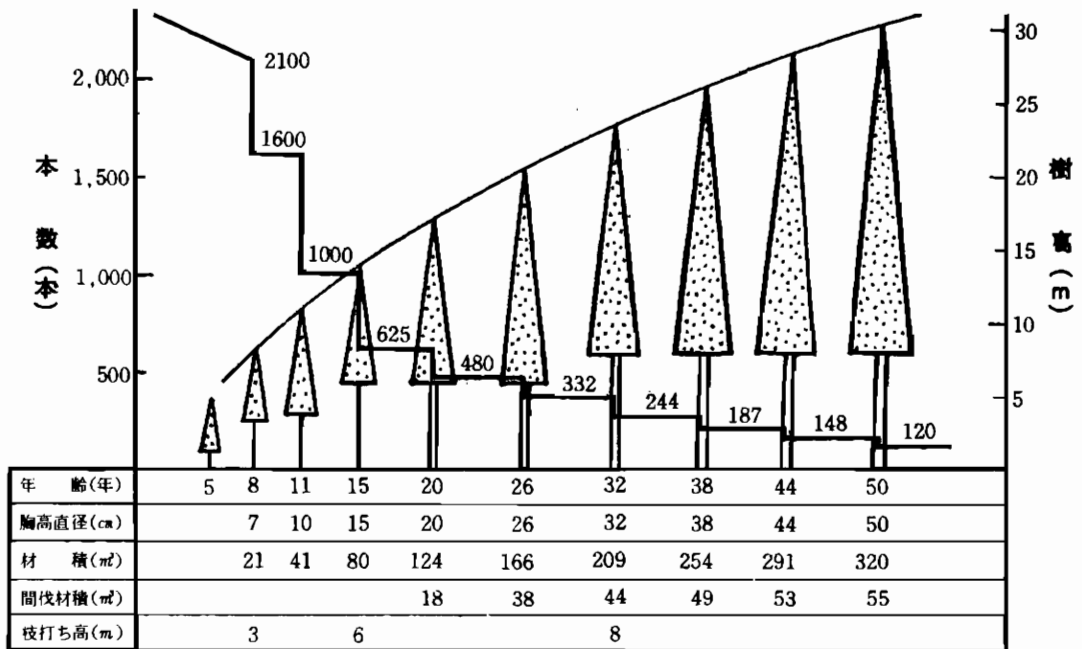


図-2 カラマツ育林体系図

富川愛林会（畑辺秀男）作成

## 2 貴化木候補の選定

良い苗木を使い、適地に植え、下刈り、野兎鼠の防除を励行し、造林地がうっ閉を始める頃までに、除伐、すそ枝払い（1 m - 2 m）を完了する。その後、林齢15年生までに次の基準により貴化木候補を選ぶ。

- (1) 通直であること
- (2) 枝が四方に均衡に発達し樹冠が大きいこと
- (3) 周囲の木から被圧されず、樹勢の旺盛なこと

この3点にポイントを置き、実際の選定には、誰の林であっても会員全員が集まり、一本ごとに検討を加えて、Ha当たりおおよそ 300本を選木する。ただし、候補木は今後間伐の度に再選定しながら本数を減らし、体系図上の本数に近づけ、林齢50年頃には一致させる。

## 3 間伐の徹底

貴化木施業において、間伐は二つの重要な意義をもつ。一つは長い育林期間中の中間収入であり、もう一つは仕立て目標へ向かう密度管理である。

林齢の若い時は強度の間伐を行い、以後は樹勢の維持を図りながら弱度の間伐を繰り返していく。その基本は樹木一本ごとの枝の張りを重視し、間伐の繰り返し時期は間伐後うっ閉が回復し、隣接木と枝が重なる直前としている。この頃になると、貴化木候補にはマーキングしてあるため、選木はこの樹木に影響のある隣接木を選ぶ。高齢になって、候補木自体が間伐対象木となる場合には、樹木の配置を重要視している。

## 4 丁寧な枝打ち

枝打ちは、貴化木を生産する上で欠かせない作業である。また、疎仕立てのため林内が明るく萌芽枝が出やすいが、普段の管理の中でその都度取り除くことにより、やがて出なくなる。器具は樹皮の傷やショックによる枝裂け等を避けるため、原則として鋸を使用するが、細い枝はよく切れるナタを使用する場合も多い。

打つ時期は、10.5cmの心持ち角にしたとき四面が無節になるよう、幹の太さがおおよそ8cmのときに、逐次行う。打つ高さは、材にしたときの二玉分8mを目標とし、それ以上と、一度に2m以上の枝打ちは樹勢を損なうので実施していない。

## 愛林会の人々と話し合っ

筆者は60年の秋、林業改良指導員経営研修会の折、愛林会6名の方々と話し合い、その山を見せていただく機会を得た。いままで記述してきたことは、その時に頂いた資料と、話し合った内容を、忠実に文や図表にしたものである。

ここで、会員の一人である畑辺秀男氏の話を紹介する。

「カラマツがこんなに沢山あって、しかも生長が良い所ですから、やりようによってはこの地域がカラマツの産地化ができるのではないかと、青空教室の折に気が付きました。幸いにして、近くに石井先生もおられ、Agさんの指導、町や森林組合のご協力を頂きながら、とりあえ



写真-2 貴化木候補（白テープ）

カラマツ 28年生、胸高直径29cm

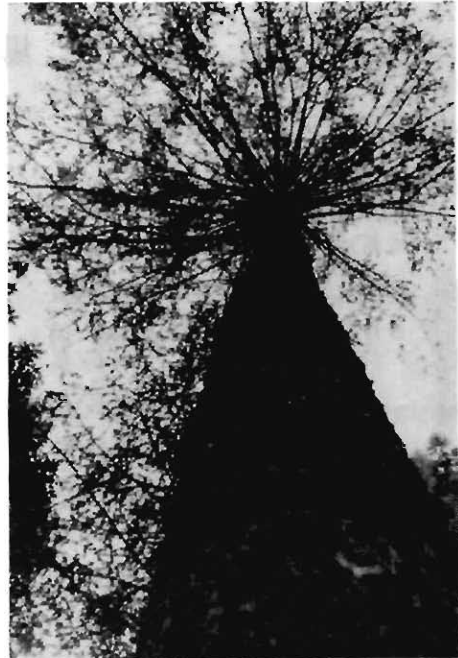


写真-3 貴化木候補の枝張り

枝打ち 8 m実施済  
32年生 D34cm H22m

ずは富川地区の山好きが集まって、何かをやろうとした訳です。今の時代、林業経営が難しいことも承知していますが、農業を支える林業ではなく、林業も一方の経営の柱として、将来目標をしっかりと経営計画を立てております。これらのことは会員みんなのところで、家族全員が賛同し、今では後継者の悩みもなくなり、いよいよこれからが本番というところでしょうか。繰り返しますが、私たちは地域のカラマツ林業が産地化されるよう、その先鋒を果たすべく、明るく、実現できる夢と信じて今後も努力を続けたいと思います」。

富川市山づくり委員会

### おわりに

カラマツ人工林を 100年もの長伐期にする技術は今のところ確立されておらず、果たして目標とする胸高直径1 mになるのか、カラマツの樹種特性からみて年輪幅にしても均一に生長させることができるのか、また、疎仕立てのため、特に50年生以降の中間収入はどうするのかという多くの問題がある。

しかし、愛林会のいう貴化木施業を考えた場合、カラマツ林業への取り組みの姿勢（考えや努力）は、私達に大きな示唆を与えてくれていると思う。

（主任林業専門技術員）